

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000660		
法人名	NPO法人すばる		
事業所名	グループホーム夢		
所在地	北見市留辺薬町旭中央29番地108		
自己評価作成日	平成24年7月15日	評価結果市町村受理日	平成25年9月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigvosyoCd=0175000660-0](http://index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvosyoCd=0175000660-0)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年8月27日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道39号線より60mほど北に位置し畑に囲まれた広い空間のなかにあります。利用者が自由に花をつくり、作物を栽培できる場所を提供しています。毎年南瓜を収穫し利用者の食卓に用意されます。年間行事の中に春は近くの桜を遠くはチュウリップ公園を観に出掛け、夏は道の駅見学、ホーム前で焼肉を行ない。秋は大正琴サークルの皆さんに来て頂き、懐かしい曲を演奏後、地域住民と共に収穫祭を楽しんでいます。日常生活は利用者の希望や要望を聞き、買い物、散歩、カラオケ、温泉に職員と一緒に出掛けています、又以前から通っていた店、理容美容医院、につながりをもち地域のイベントに積極的に参加しています。私たちは利用者の残された力を活かし、毎日楽しく明るく、お互い支えながら穏やかな生活を目指しています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北見市留辺薬町東部の閑静な住宅街に立地した平屋建て1ユニットで地域に溶け込んでいます。開設9年が経ち、事業所への地域住民の理解も深まり、今では気軽に遊びに訪れたり、住民の相談事を受け入れるなど地域に安心をもたらしています。家族の方の要望があり、パンフレットを新しくしたり、同時にホームページも開設し、事業所の情報を詳しく提供しています。「長い人生の主役です 自分らしく ゆっくりと のんびりと」の理念を基本に、職員は業務を優先することなく利用者に寄り添ったケアを心がけ常によりよい介護を目指しています。又、常日頃より利用者本位の生活を追究する中で積極的に外部研修に参加し、内部研修を計画的に行い現場実践の向上に活かしています。利用者の持っている力を発揮できる場面作りや職員が考案した夢体操を日課として取り組み、体力、健康維持に役立て、地域住民・家族が参加する恒例行事「味覚祭」の開催や外出機会等を通じて利用者の楽しみと活力ある生活に繋げています。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、管理者と職員は共に共有しながら実践に勤めている。	理念は玄関、居間、廊下等、見易い所に掲示し、パンフレットやホームページにも掲載するなど、地域住民や来訪者、家族との共有を図り、職員は理念に基づいた支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が、地域とつながりながら暮らして行けるよう地域のイベント等の参加、なじみの理容室に通うなど、地域との交流をしている。	地域の夏祭りに町内の一員として参加したり、事業所の味覚祭を恒例行事として開催し併せて大正琴の慰問演奏もあり、地域住民との交流を深めています。日常的に地域住民が訪問しやすい環境を作っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民の相談には、認知症の理解や支援の方法等を説明しているが、地域の為の講習会等は行っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に行っていないが、職員紹介や、地域のアドバイス等を受け、サービスの向上に活かしている。	2ヶ月に1度、保健福祉課職員、包括支援センター職員、民生児童委員、地域住民等の参加を得て開催し、現状報告、社会資源の活用、ヒヤリハット、研修について話し合わせ事業所運営に活かしています。又、議事録を作成し家族に郵送しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に、事業所の状態を報告し、ケアサービスの取り組みを伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	管理者が出向き、行政の担当者とは常に情報交換、相談等に努めています。運営推進会議にも参加が得られており、連携を深めながら協力関係を築いています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の具体的な行為を良く話し合い、管理者、職員が利用者一人ひとりの状況を把握し、その人に合った介助を行い身体拘束をしない様に取り組んでいる。	職員は研修を通じて身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的な苦痛の理解と共通認識を図っています。家族の了承の基、利用者の状態変化によりやむを得ず拘束となる場合は対応方法の確認や廃止に向けた鋭意検討を行い、身体拘束解除に繋げています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の状態を把握して虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々に必要な人がいるのか話し合あうが、活用支援までは行かない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並が機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族の来訪時や電話、ケアプラン作成時を大切な機会と捉え、意見、要望を聞くよう努め、寄せられた要望等は速やかに運営に結びつけています。担当職員が作成する通信(年4回)と利用者一人ひとりの日常の様子をDVDにして家族に郵送しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、毎月開いている全体会議で職員の意見や、提案を聞き運営に反映する様に努めている。	管理者は職員会議や日常業務を通じて職員の意見を聞き、サービス向上に活かしています。管理者、ホーム長、事務長、ケアマネージャーが中心となり、職員がいつでも相談できる体制を整えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり相互訪問等の活動を通じて、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。ケアプラン等に反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等がその時必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族支援される一方の立場に置かず、暮らしを出来る限り共にする者同士の関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣近所へ気軽に遊び出掛けられる環境までは整っていないが、昔馴染みのお店や、美容院等へ出掛けられるよう配慮している。	入居後も馴染みの場所や人間関係を大切にしており、友人の訪問を歓迎し、継続的な交流が続けられるよう配慮しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに職員が間に入り、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントや家族からの情報、日々の関わりの中での会話を通して要望、希望を把握し、表現できない部分は表情、状態などから捉え、その人らしい暮らしになるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの個人記録があり、現状を把握し、毎日申し送りをしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議を開き、モニタリングする事で、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は毎月職員会議でカンファレンス、モニタリングを行い利用者、家族、職員の意見を盛り込み、現状を踏まえて作成しています。個人の生活記録にケアプランが添付されており、職員は共有しサービスの実現化に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個人記録に記載し、毎日の介護実践の見直しは出来るよう朝のミーティングで話しあっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて其の時々に応じて、柔軟な対応が出来るよう常にニーズは共有しており、サービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、安全で、豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に馴染みの病院に受診、また往診に来ており、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者のかかりつけ医へ家族対応で受診していますが、困難な時には支援したり、往診が受けられる体制にあります。訪問看護師が月に2回、又、職員で看護師資格者が2名在籍しており健康管理に配慮した体制が構築されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員や月2回訪問看護を受けており、柔軟に相談し適切な介護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	24時間対応できる医療機関とつながっており、常に情報交換や相談に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で、本人、家族、関係者と話し合い、事業所のできる事を十分に説明し、チームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期の取扱いについては、取り組む方針で利用契約時に、利用者、家族に説明し同意を得ています。職員への研修は開業医の協力を得て系列のグループホームと合同で行い、支援できる体制を構築しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、職員は応急手当や初期対応の訓練を受けているが、定期的には行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は、連絡網等で整備されているが、訓練は安心できるほど充分ではない。	定期的な火災避難訓練は、日中、夜間想定で年2回地域の協力を得て行っています。更に、今年から2ヶ月に一度、事業所内での訓練を重ね職員が避難方法を身につけるよう取り組んでいます。	地震、風水害等あらゆる災害に対するマニュアルの整備と体制構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格、誇りを尊重し、その人に合った言葉かけや対応をしている。	職員は利用者の人格や尊厳を損ねないよう心掛け、呼びかけは、さん付けで行っています。個人名の入ったファイル等は戸棚、引き出しに収納し、プライバシー確保に配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、耳を傾け、表情などでも読み取るよう心かけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が、以前の生活と大きな変化がないように、対応していくために、本人の意向を大切に支援できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人にあった季節感のある身だしなみの手助けや、助言、理容、美容室は本人の行きつけのお店に通っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者が一緒に、食事の準備と後片付けをしている。	管理栄養士による献立プランが3週間分あり、そのローテーションで職員が調理を行っています。その中で利用者の希望や、季節のアレンジを取り入れ楽しい食事となるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や、水分量を把握し、記録に残しており、充分確保できるようその人に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握しており、本人の力に応じた口腔ケア介助、支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らす為に、一人ひとりの排泄間隔にあわせたトイレ習慣の支援をこころがけている。(排泄パターンの把握)	介護記録に水分摂取、排泄記録を取り、利用者のパターンを把握して時間誘導を行い自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を元に一人ひとりのパターンを良く知り、食事の工夫や、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表を元に、一人ひとりの体調、希望にあわせ入浴の支援をしている。	週2回の入浴を基本とし、利用者のその日の状態や希望に合わせて支援しています。入浴が難しい時はシャワー浴等で対応し清潔が保てるよう配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の工夫した支援により、昼夜逆転しないよう、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋がすぐ確認できる場所に保管しており、一人ひとりが用法や用量について理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの、生活歴を元に本人の希望や意志を聞き、得意分野を表現し楽しめるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別にあるいは、利用者の方と家族がともに出掛けられるように支援している。	日常的に花作りや、作物づくりで屋外に出ています。その他ドライブで、近隣の公園、水族館等の施設や、地域のお祭りや行事に出かけ気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者が穏やかに安心して生活できる様に、音楽をながしたり、思い出の写真を飾っている。	居間は広くゆったりとした中に、食卓やソファが配置され、大きな窓やベランダからは畑や花が一面に見渡せて利用者の心を和ませています。ソファで昼寝をしたり、会話をしたり、利用者がそれぞれ好きな過ごし方ができる様に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内は狭いので、外にベンチを置き気の合った者同士で思い思いに過ごせるような居場所を工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら使い慣れた物を活かし、本院が心地よく過ごせる工夫をしている。	居室には利用者が使い慣れた筆筒等の家具が置かれ、壁には記念写真や絵が飾られ自宅と同じように居心地良く暮らせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの力を活かして、混乱や失敗のないよう、自立して暮らせるように、部屋には表札を掛け、トイレなどすぐ分かる様に目印をつけている。		